

# 読書は永遠のニューメディア



## 白根市民は本が好き？ 近ごろ図書館利用事情

今年もお米の収穫が終わり、夜の訪れも早くなりました。本を読むには最適な季節ですね。新聞などでも読書に関する記事が目につきます。読書などで皆さんのお役に立っているのが図書館です。あなたは市立図書館を利用したことがありますか。蔵書数は4万1千冊と年々増えています。一方、利用するのは市民の30人に1人。本の貸し出しは市民1人当たり0.7冊。以前より減りました。なぜなのでしょう。今回はこの辺を探りながら、図書館のいろいろなサービスや利用状況を紹介します。10月27日～11月9日は読書週間です。

白根図書館では、市民の皆さんから本に親しんでいただくよう、さまざまなサービスを行っています。ご利用ください。

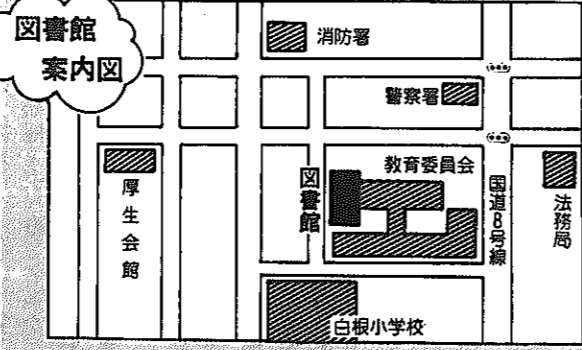
### 本を貸すだけではない たくさんのサービス

市立図書館と八つの地区配本所には、毎日たくさんの人たちが本との出会いを求めてやってきました。まるで「活字離れ」など、よその世界の出来事のように、あるいは逆にこういふ時代だからこそ、より熱心になるのかもしれない。「テレビより本好きの子に」というお母さんも、よく子供向けの本を借りていきます。図書館は本を借りるだけでなく、学習や研究に必要な情報提供など、幅広く利用できる所です。皆さんの書齋として、大いに活用してください。

▼調べたいことがあるのだが…。また、本のこのページを写し取っておきたい、というとき：レファレンスサービスとコピーサービス。図書館には、あらゆる人に資料を提供する役目があります。皆さんの質問を受けて、図書館にある蔵書の中から必要な情報を引き出し、お答えするレファレンスサービスも行っています。図書館の蔵書の一部を複写することも

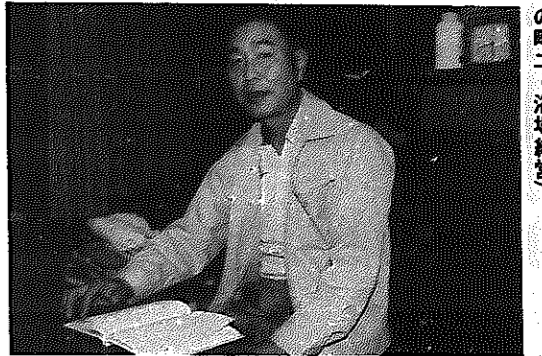
### 市立白根図書館 (☎373-2810)

- ▶開館日 月曜日～土曜日
- ▶開館時間 月・水・木・土曜日 午前10時～午後5時  
火曜日と金曜日 午前10時～午後8時
- ▶休館日 日曜日と祝日、年末年始、特別整理期間
- 本を借りるには…
  - 市内に住んでいる人や、市内に通勤、通学している人ならどなたでも借りられます。
  - 初めての人は「館外利用申込書」に必要事項を記入して登録していただきます。その際、印鑑が必要ですので忘れずにお持ちください。登録は4月1日から翌年の3月31日まで有効です。
  - 貸し出しは1人2冊まで。1週間借りられます。
- 本を返すには…
  - 受付カウンターの係員に渡してください。
  - 本を2冊借りている人は、必ず2冊ともいっしょに返してください。続けて読みたいという人は、すぐまた借りてください。



並木さんは、子供のために毎週図書館へ創作童話を借りに行きます。その日に全部読み終え、次の日、また借りに行くことも。「下の子が保育園に通うようになるまでは時間があるので、お昼寝の前や夜寝る前に読み聞かせています。上の子も学校から借りてきて、下の子に読んでやるようになりました。本好きになれば、テレビもあまり見なくなるのでは」。今年の3月に埼玉県から越えてきて、地域生活センターに配本される本はほぼ読み終えたそうです。「できれば近いセンターを利用したいので、配本の回転を早くしてもらえると助かるんですが」と並木さん。感心していると「ひまだからできるんですよ」と笑いながら話してくれました。

「本好きの子になってもらいたくて」と読み聞かせてもらっている並木さん(白井と、巫矢さん(白井小一年)、隔一ちゃん(三歳)



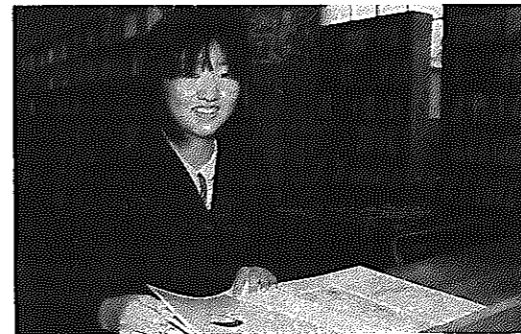
「好きな作家の本はほとんど借りている」という笹川勇一郎さん(町二・浴場経営)

笹川さんは、1週間に1回は必ず図書館に行って2冊づつ借り、朝5時に起きてからや、風呂のボイラー室で仕事をしながら読んでいます。好きな作家の本はほとんど読み、まちがってまた借りてくることもあるとか。「司馬遼太郎や松本清張、新田二郎などをよく読みます。新進作家はあまりなじみませんね。いろいろな本を読めるのは図書館のおかげです。館の人は「読みたい本があったら取り寄せますから」と親切に言ってくれますが、だいたい間に合っているのでもまだ頼んだことがないんですよ」と笹川さん。心に残る本として山岡荘八の「徳川家康」全18巻を挙げてくれました。

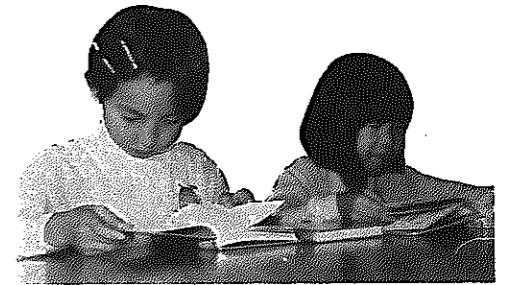
## 私たち、図書館を

高校の美術クラブに所属する熊谷さんは、多いときで週に3回くらいやっています。「クラブで日本画を描いているので、気が向いたときに美術書を眺めたり、学校のテストが近くなると、源氏物語などの古典や漢文を口語訳してあるものを借りて来たりしています。美術書は貸し出さないので残念。やっぱり傷むから無理なのかな」と熊谷さん。この6月に読んだ神原保美の「龍人沼崎潤」が心に残るといいます。「なんとなく受けた印象がそのままフツと、いつの間にか浮かんでくる感じで」。

「気が向いたとき美術書を眺めに」やってくる新津高三年の熊谷有希子さん(中央通一)



### 学習に



「学校帰りに読書や宿題をする」という白根小三年の熊倉美幸さん(美町・写真左)と金子真琴さん(桜町二)

図書館に来ていた熊倉さんと金子さんを取材しました。「今日は学校が早く終わったので午後2時ころから来ています。いつもは3時ころかな。毎日ここで本を読んだり、国語と算数の宿題をやったりしています。本は大好きです。家でもよく買ってもらうし、お兄ちゃんが買ってくるマンガ本なんか読みます。5時ころまでいますが、書道塾がある日は4時に帰ります」と、同級生の仲よし二人組は話してくれます。熊倉さんは「テレビと本どっちも」、金子さんは「本の方が好き」で、二人とも童話や学習マンガをよく借りていくのだそうです。

## 活用して います。

市内には八つの地域生活センターがあります。いずれのセンターにも図書館の配本所が設けられ、300～600冊が配本されています。いちばん新しい鷲巻のセンターにも早速、常連が現れました。「学校の帰りによく寄っていく」という宮崎くん和本間くんです。センター職員も「あの二人はいつもいっしょにやってきて、熱心に借りていくんですよ」と話していました。

鷲巻地域生活センターの配本所をよく利用する大鷲小四年の宮崎くん(東笠巻新田一・写真左)と本間克則くん(同)



### 離れていても(遠隔地サービス)

「読んでくれて子供がせがむんですよ」と話す青山秋美さん(東古川)と、佳世子ちゃん(5歳)▼好評の「でむかえ文庫」



図書館では現在、6保育園を対象に2週間に1回づつ「でむかえ文庫」を行っています。10月8日、古川保育園にお伺いしました。童話や絵本などがぎっしり詰まった箱が並べられ、園児と迎えに来たお母さんらが本を選んで2冊づつ借りていきます。青山さんは「特に用事がない限り、毎回利用しています。いつも寝る前に読んでいますが、1回読んでやると、その後はだいたい自分で読んでいます。『でむかえ文庫』がなかったら、こんなに読まないでしょうね。おかげで助かっています」と話してくれました。